

令和2年度 呉羽高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援（進路指導の充実）
重点課題	進路意識を高め、進路目標の実現に向けて学力を向上させる。
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自己の能力や適性を的確に判断しようとする意識、将来の進路に関する目標設定が低く、そのため学習への意欲が低く取り組みの甘い生徒が多い。 ・生徒一人ひとりがまず自分をよく知り、将来の進路への意識を高め、主体的かつ持続的に考えながら選択し、目標実現に向けて努力していけるようにすることが最も大切である。 ・そのための方策を系統立てて明示し、学校生活の中で時期を意識しながら伝えることや、学期の進行や学年進行とともに進路意識を熟成させられるような支援システムを構築する必要がある。
達成目標	<p>① 1年間にひとりの生徒が、担任その他の先生と進路について相談した回数</p> <p>1年生は5回以上、2年生は5回以上、3年生は7回以上</p>
方策	<p>○3年間を通した計画的な進路指導を行い、生徒・学校・家庭が一体となり、進路志望実現を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1学年・・・生活習慣や学習習慣を確立させる。「総合的な探究の時間」等で進路研究を行い、自己理解や適性の把握に努めさせる。また、適切な文理選択を支援するため、漠然とした進路希望を持つ生徒や、進路選択に悩む生徒が自己の適性を知り、自分の将来について主体的に考えられるような機会を設ける。「大学招請講義」では興味関心のある講義を受講させ、学部・学科の内容についての理解を深めさせる。 ・第2学年・・・ホームルーム等を通して大学や学部について研究し、自己の適性をふまえた進路選択ができるよう指導する。「大学招請講義」では自分が興味関心のある講義を実際に受講し、学部・学科選択の一助とさせる。また、「合格体験報告会」では先輩達の進路への心構えや学習法などを実際に聞き、新年度に向けて学習への意欲を高めさせる。 ・第3学年・・・高い進路志望を持ち、実現できるように長期・中期・短期の学習計画を立てさせ、進路実現に向けて最大限の努力をさせる。また、ホームルーム、学年集会や外部講師による進路講演会等から、具体的な進路情報を得て、進路志望実現に向けて主体的に学習に取り組ませる。 <p>○個人面接やホームルーム等を通して、学習習慣や生活習慣の見直しをさせるとともに、早期に志望校を明確化できるようオープンキャンパスや学校説明会への参加を勧める。</p> <p>○校内模試や外部模試を有効に活用し、結果を学年会や進路検討会で分析しながら教員間で情報を共有し、授業や個別指導（教科添削、小論文、面接）に活かす。</p> <p>○入試動向を調査し、それらをもとに本人の適性や成績・意欲などを総合的に勘案し、適切な志望校選択を支援する。</p>
達成度	1年生 3.4回 2年生 3.1回 3年生 7.8回
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・第1学年では、「総合的な探究の時間」に自己理解を深めたり、現代社会の課題について考察したりする活動を行い、自分の興味・関心だけでなく社会的な観点も意識した上で進路を考えさせ、文理選択につなげた。また、12月の招請講義では、学部・学科の学問内容についての理解を深めさせることで、進路意識の向上をはかった。 ・第2学年では、ホームルームと「総合的な探究の時間」を使った志望大学調べにより、学部・学科の学問領域や研究内容についての理解を深めさせた。12月の招請講義では、自身の関心や志望等に応じた、より専門的な学問に触れることで志望分野への興味・関心を高めさせ、進路目標の明確化を促す機会とした。 ・第3学年では、ホームルームで模試結果の振り返りを行い、生徒自身が目標点を設定し学習重点課題を確認する時間を設けた。その内容を担任が把握して個人面接を行うことで、外部模試を活用した学習の深化を促した。「小論文講座」は、オンラインで外部講師の指導を受けることになったが、受験を控えた生徒たちはより真剣に講師の話に耳を傾け、それぞれの課題の取り組み方について理解を深めた。
評価	C 1学期の長期休校や3学期の大雪による休校の影響で、面接できる期間が短くなった影響が大きい。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・進路目標を早期に設定できるよう、講演会や見学・体験等を行い、社会に目を向け、視野を広げるチャンスを与えてもらいたい。あらゆる分野で活躍している卒業生と接する機会を設けることも有効なのではないか。 ・先生も生徒も忙しいので、面接の実施方法や内容を工夫してもらいたい。
次年度に向けての意見	<ul style="list-style-type: none"> ・進路について考えるきっかけとなる働きかけを工夫したい。 ・進路に関する面接が充実したものになるよう、実施方法・内容について検討したい。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)